認知症のお話
⑤認知症の方にどう接すればいい？

市では医療機関・介護サービス事業所や地域の支援機関をつなぐコーディネーターとしての役割を担う認知症地域支援推進員を配置しています。

認知症の方ができる限り住み慣れた地域で暮らしていくためには、まず認知症に関して正しい知識を持つことが大切です。

認知症に関する記事を6回シリーズで掲載します。

《問合せ》高年福祉課豊岡地域包括支援センター
☎24－2409

認知症になると何も分からなくなるわけではありません

「認知症になると、何も分からなくなる」と多くの方が思っていますが、それは間違いです。

確かに、物忘れが多くなり、日付や季節などが分からなくなったりしますが、喜怒哀楽の感情、日々の決まった生活上の能力、昔から続けていることを実行する能力は長く維持されます。

また、物忘れが多くなったり、今まで苦もなくできていたことができづらくなることを、誰よりも本人が不安に思い、混乱しています。

「どうせ本人は分からないのだから」と、乱暴な対応をしたり、子ども扱いしたりすることや、「認知症だから」と接し方を決めつけることは、認知症の方の自尊心を傷付け、不安を増強させます。これらは、認知症の症状を悪化させるきっかけになることがあるため避けましょう。

認知症の方との接し方のポイント

認知症の方と接するときに、相手の思わぬ言動に戸惑うことがあると思います。その際に、理屈で説明・説得を試みることは、本人に罪悪感や孤独感を募らせることにつながります。次のことを心掛けましょう。

○その方の自尊心を尊重する。
○余裕を持って対応する。
○間違いや失敗を「大丈夫だよ」と受け入れる。
○少しだけ事実と違ったことを言っても、訂正せずに聞く姿勢を示す。
○何か役割のようなことを果たせるようにする。
○話し掛けるときは、相手に目線を合わせ、穏やかな口調で話す。
○言葉だけでなく笑顔やスキンシップを意識する。
○自分一人でなく複数の方と介護をする。

もったいない川柳応募作品紹介
（氏名またはペンネーム・敬称略）

もったいないにんじんの皮キンピラに　（矢熊久美子）
書けないボールペン先を湯につける　（安田靖子）
限りある資源を生かすリサイクル　（かみふうせん）

◆高校生以下の部

もったいない言っただけでは変わらない　（松木理紗）
捨てちゃうのぼくらはまだまだつかえるよ　（仮）
大切な資源のために節電す　（汐音）
食べ物を生ゴミにすると残飯だ　（匿名）
もったいないその一言にありがとう　（匿名）
もういらない地球にゴミが増えていく　（匿名）
捨てちゃ嫌まだまだ使える文具の声　（匿名）
エコ生活みんなでやれば苦にならない　（匿名）
たべのこし最後まで食べてもったいない　（匿名）
気付いたら地球が汗をかいている　（匿名）
残すならそんなに量をいれるなよ　（宇宙の空）

◆一般の部

エコバック笑顔とともにお買い物　（カニサン）
他国語に訳せぬ心がそこにある　（ＵＫＥＡ）
無駄なのは捨てることより買ったこと　（とっと）
大根の残った葉っぱみそ汁に　（ハタ谷の栃）
太陽も風・波・川もエネルギー　（のん）
残り湯は植木に洗濯大活躍　（武藤　哲）
こんな句に賞をくれるのもったいない　（臨海和笑）
おひさまや雨の水にも感謝して　（村尾いつ子）
欲しいのか必要なのか考えて　（村尾利一）
もったいない心の化粧は落さない　（村尾八恵子）
リサイクルゴミという名を返上し　（本木和彦）
一滴の水から広い川になる　（盛重力哉）
節電は母の背中を見て学び　（森下　誠）
子に使い母の介護も布おむつ　（森本七重）

企業紹介

ふるさとづくりのために

環境経済に取り組んでいます！㉗

株式会社キヅキ商会（元町）

―太陽光発電パネル　設置工法研究発電所の開設―

「環境を良くする事業で経済効果が生まれることにより、環境と経済は互いに発展し合う」。このような環境経済型事業に取り組む企業にインタビューします。

《問合せ》経済課経済係☎23－4480

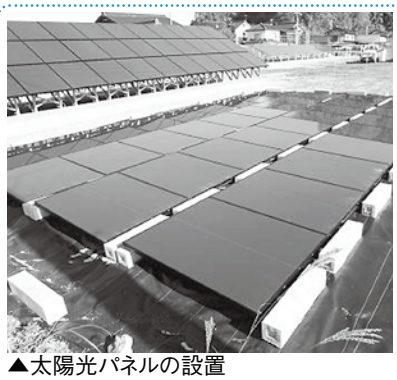
―太陽光発電関連事業を始めた経緯は？

当社は、建設業者に住宅関連資材を卸す会社です。太陽光発電パネルの設置に関する依頼が以前からあり、5年前に、本格的にビジネスとして着手しました。また、3年前からは、豊岡市建築大工組合の皆さんとも、勉強と経験を重ねています。

―今回の設置工法研究発電所を開設したきっかけは？

気象の博物館と言われるほど気象条件が厳しく、一般的に、太陽光発電に不向きだと思われている但馬で、土地への最も適切な設置方法を研究するために、昨年末に開設しました。今回の研究は、約1年間続ける予定で、検証結果は、専用ブログで発信します。

〝但馬でも太陽光発電は採算が合う〟ということを、業界の方だけでなく、市民の方々にも知っていただきたいです。



▲太陽光パネルの設置

―今回の取組みへの反応は？

工事中から、多くの問い合わせがあり、潜在的需要の高さを感じています。

―太陽光発電が広まると、何を期待できますか？

二酸化炭素排出量の削減が進むことはもちろんですが、〝土地の有効活用〟にも期待しています。土地は、田舎の大きな資源だと思っています。この資源を有効活用する方法として、当社は太陽光発電をお勧めしています。

日本では、パネルは屋根に設置するものだと思われがちですが、世界的には、遊休地などに設置することがほとんどです。豊岡でも、大小問わずに設置が増え、地元産業や経済が活性化することも期待しています。

▲雪の落ち方を研究

―今後の展開は？

今回の研究で得られた成果により、幅広い地域の方々に、太陽光発電の採算について納得していただきたいです。

当社では、万一故障した場合の対応に限らず、メンテナンスも請け負っています。設置していただいた方々が、長期的に安心と喜びを感じていただくことを目指して、サービス体制も強化しています。

※詳細は、問い合わせてください。☎22－5169

「みやぢ」南極へ行く⑬　帰り支度

平成23年12月23日、「みやぢ」こと宮下泰尚隊員（豊岡市職員）が「第53次南極地域観測隊越冬隊員」として南極昭和基地に立ちました。豊岡市民にとって、豊岡にいながら世界につながるという新しい夢の始まりです。世界に飛び出した宮下隊員のレポートを紹介します。

《問合せ》植村直己冒険館☎44－1515

南極での生活も13カ月が過ぎました。間もなく、昭和基地を第54次越冬隊に引き継ぎ、「しらせ」に乗り組みます。寝る間を惜しんでの作業の合間に、帰り支度を始めました。身の回りのもの、氷山から採取した約2万年前の氷片、廃棄物やごみの灰などなど…。

この1年間、人間はちっぽけなものだと強く感じさせる自然の大きさ、強さなどを味わい、地球の感じ方が変わりました。そんな思いをお土産に、豊岡市へ帰ろうと思っています。最近、何か忘れものをしたような思いがあり、近づく昭和基地の出発までに、南極をもっと肌で感じたい思いでいっぱいです。夏の期間中に行わなければならないことは山のようにあります。

私の本来の業務である長年たまった廃棄物の持ち帰り作業も慌ただしいですが、残された時間をしっかり楽しもうと思っています。

※詳細は、ブログ「植村直己冒険館職員南極へ行く」で紹介しています。

http://blog.ap.teacup.com/boukenkan/

▲日本に持ち帰る約2万年前の氷の採取